

地域社会学会会報

No.235 2023.9.21

地域社会学会事務局 Office of Japan Association of Regional and Community Studies
〒480-1198 長久手市茨ヶ廻間 1522-3 愛知県立大学教育福祉学部
松宮朝研究室内

TEL 0561-76-8706(直) FAX 0561-64-1107 郵便振替 地域社会学会 00150-2-790728
E-mail jarcs.office@gmail.com URL <http://jarcs.sakura.ne.jp/>

◆…………… 〈 会報 235 号のトピック 〉 ……………◆

- 1) 年報 36 集の論文投稿募集を行っております。詳細は 6 ページをご覧ください。
- 2) 2023 年度会費納入をお願いします。2023 年度より SMOOSY によるクレジットカード決済を原則としています。振込用紙の送付は行っておりませんので、サイトよりご確認をお願いします。

目 次

1. 理事会からの報告
2. 研究委員会からの報告
3. 編集委員会からの報告
4. 50 周年事業委員会からの報告
5. 事務局からの報告
6. 事務局からのお知らせとお願い
7. 会員異動
8. 会員の研究成果情報
9. 理事会のご案内

2023 年度 第 2 回研究例会のご案内

日時 2023 年 10 月 14 日 (土) 13:30~16:30
会場 早稲田大学戸山キャンパス+Zoom でのハイブリッド方式
※アクセス方法等は、開催 2 日前をめどに、会員メーリングリストで配信します。

【報告】

畑山 直子 (特定非営利活動法人サーベイ)

地方移住者が遭遇する地域の衰退と縮小——若者の移住経験からみる地方移住の現在

地域社会学会 50 周年記念事業「地域社会学を振り返る」(2)

橋本和孝 (地域社会学会元会長・関東学院大学名誉教授)

1980 年代中葉以後の私的都市・地域社会研究—地域社会学会との 40 年—

10月14日（土）開催の第2回研究例会ご参加のみなさまへのお知らせとお願い

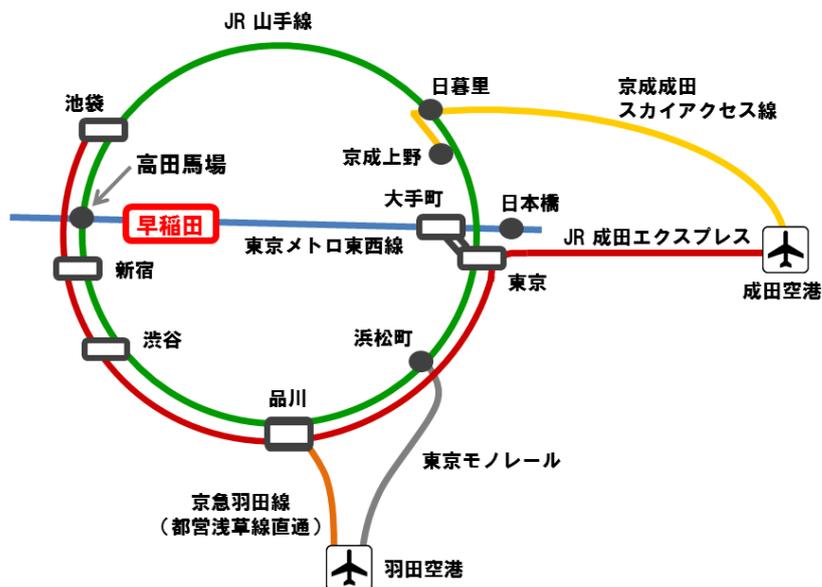
1.会場にお越しのみなさま

会場：早稲田大学戸山キャンパス 36号館

教室：682教室（36号館6階）

住所：〒162-8644 東京都新宿区戸山1-24-1

【会場へのアクセス】



電車

地下鉄東京メトロ東西線 早稲田駅から徒歩3分

JR山手線 高田馬場駅から徒歩20分

西武新宿線 高田馬場駅から徒歩20分

副都心線 西早稲田駅から徒歩12分

バス

学バス：高田馬場駅 - 早大正門、馬場下町バス停で下車

成田空港

・成田国際空港からJR成田エクスプレス利用で約1時間50分

成田エクスプレス「新宿駅」乗換、山手線「高田馬場駅」乗換、東京メトロ東西線「早稲田駅」

・成田国際空港からリムジンバス利用で約2時間

リムジンバスにて「新宿駅（西口）」JR山手線「高田馬場駅」乗換、東京メトロ東西線「早稲田」

・成田国際空港からJR京成スカイライナー利用で約2時間

京成スカイライナー「上野駅」乗換、東京メトロ銀座線「日本橋駅」乗換、東京メトロ東西線「早稲田駅」

羽田空港

・東京国際空港（羽田空港）から京浜急行利用で約1時間

京浜急行「日本橋駅」乗換、東京メトロ東西線「早稲田駅」

2. オンラインでの参加のみなさま

<事前の準備のお願い>

- ◆事前に Zoom のアプリをインストールしておいてください。インストール済みの方は、「アップデートを確認」で最新バージョンに更新しておいてください。
- ◆Zoom のアクセス方法等は、開催 2 日程度前をめぐり、会員メーリングリストで配信します。
- ◆Zoom のリンクやミーティング ID、パスワードは、他人に教えないでください。

<当日のお願い>

- ◆待機室を設定している場合、所定時刻の 5 分ほど前に設定を解除して入室できるようにします。ただし、直前の打ち合わせが長引くなどで、待機室の設定解除が遅れることもあります。その場合は待機室でお待ちください。
- ◆ミーティングルームに入ったら、司会者と報告者以外は、マイクは「ミュート」にして、発言時のみ「ミュート解除」にしてください。ビデオはオンでもオフでも結構です。適切な操作がなされていない場合には、主催者がミュートにするなどの操作をすることがあります。
- ◆画面に表示する氏名は、「フルネーム（所属）」に変更しておいてください。
- ◆研究例会は、研究委員会が記録用にレコーディングします。接続・参加をもってレコーディングに承諾いただいたものとみなします。研究委員会以外の方（報告者も含めて）が Zoom の画面を撮影したり、録画・録音したりすることは禁じます。

<配布資料について>

- ◆報告者から当日配布資料があるときは、Zoom のチャット機能を利用して配布します。
- ◆配布のタイミングは、各報告の開始時と開始 10 分後の 2 回です。

<質問・発言について>

- ◆以下のいずれかの方法でお願いいたします。
- ①Zoom の「リアクション」にある「手を挙げる」を表示させる。
- ②Zoom のチャットに、質問内容を書き込む
- ③Zoom のチャットに、質問がある旨を書き込む

<Zoom 終了後の交流時間の取りやめについて>

- ◆オンライン開催では、研究例会の終了後もしばらく Zoom を開放し、報告者・参加者の交流の時間としてきましたが、今回はハイフレックス開催のため片付け等の都合から、Zoom での交流時間は設けないこととさせていただきます。

<当日の Zoom 操作に関する相談窓口>

- ◆当日、「接続できない」などの不測の事態に備えて、Zoom 操作に関する相談窓口としてサポートセンターを開設します。メールでご連絡ください。

当日サポートセンターの連絡先

- ◇メールアドレス matumiya[アット]ews.aichi-pu.jp [アット]を@にしてください。
- ◇当日配布資料の再配布はありません。

<問い合わせ先>

- ◆当日の Zoom 操作に関する以外、研究委員長（清水洋行、hishimizu [アット]chiba-u.jp) までメールでお問い合わせください。[アット]を@にしてください。

1. 理事会からの報告

(1)2023 年度第 1 回理事会報告

2023 年度地域社会学会第 1 回理事会は、2023 年 7 月 14 日（土）の 10 時 30 分から 12 時 20 分まで、東洋大学（ハイブリッド）で開催されました。出席者は以下の通りです。

出席（16 名、敬称略）：木田勇輔、小山弘美、齊藤綾美、佐藤洋子、清水洋行、高木竜輔、田中里美、玉野和志、中澤秀雄、船戸修一、前島訓子、松木孝文、松宮朝（記録）、町村敬志、丸山真央、望月美希、吉野英岐

理事会では、報告事項 7 件、審議事項 7 件が議論されました。

●2024 年度第 49 回大会

2024 年 5 月 11～12 日、滋賀県立大学で開催予定。

●2023 年度研究例会

下記の日程について決定しました。内容、場所については決まり次第、HP でご案内します。

第三回研究例会：12 月 9 日（土）13 時 30 分～16 時 30 分

立命館大学+ZOOM でのハイブリッド（会場については調整中）

その他の審議事項の詳細については、各委員会報告をご覧ください。

（松宮 朝）

2. 研究委員会からの報告

7 月 15 日（土）に 2023 年度第 1 回研究例会がハイブリット形式で開催され、対面参加者 23 名、オンライン参加者 23 名（最大時）の合計 46 名でした。当日の田中里美会員による研究報告の概要は『地域社会学会ジャーナル』第 12 号の報告論文と批評論文をご参照ください。また当日は、研究報告は 1 本でしたが、50 周年事業「地域社会学を振り返る（1）」、および若手会員の地域調査・研究ワークショップが開催され、多彩なプログラムとなりました。対面の会場では休憩時間や終了後に、初めての例会参加者も含めて名刺交換や情報交換が活発に行なわれ、会員同士の研究交流のよいきっかけとなりました。

研究委員会では、8 月 4 日（金）に第 3 回の委員会をオンラインにて開催し、今期の研究テーマについて、2022 年度における移動論の視点（「移動性」「領域性」「複雑性」）を補助線として引き継ぎつつ、(1) 大都市から地方への人々の地理的移動、特に若年層の動き、(2) 移動先での地域の生活（就労を含む）と帰属との関係、(3) 移住者をめぐる「複雑性」を伴う新たなつながりやシステムの形成、等を軸として検討を進めていくこととしました。なお、第 3 回研究委員会の出席者は以下の通りです（敬称略）。小山弘美、阪口毅、高木竜輔、田中里美、西野淑美、清水洋行。

次回の第 2 回研究例会では、「縮小する地域」への移住者の適応・定着について研究を重ねてこられた畑山直子会員に報告していただきます。今期の研究テーマにもとづく最初の研究例会ですので、ぜひともご参加いただき、2024 年 5 月のシンポジウムに向けた論点、アイデア、課題等をいただけますと幸いです。みなさまのご参加をお待ちしております。

（清水 洋行）

3. 編集委員会からの報告

本年度第 1 回編集委員会を 7 月 11 日に、第 2 回編集委員会を 8 月 7 日に開催しました。年報 36 集の編集作業の手順やスケジュールの確認、書評対象図書や執筆者の選定に関する検討を行いました。

さて年報第 36 集（2024 年 5 月発行予定）の原稿を募集します。下記の要領にしたがって募集しますので、積極的な投稿をお願いします。自由投稿論文については、他のカテゴリーの原稿に比べて締め切りが早くなっています。〈ビューポイント〉〈名著再発見〉〈研究紹介〉のコーナーについても、投稿をお待ちしています。なお、35 集から投稿規定が変更になり、電子ファイルでのみの提出になります（郵送での提出は不要です）。投稿規定・執筆要領・著作権規定をご確認のうえ、ご提出してください。執筆要領が遵守されていないと判断された場合、編集員会では受理しないこともあるため、投稿前に執筆要領の確認をお願いします。

〈年報第 36 集原稿募集要領〉

1. 自由投稿論文：タイトル・執筆者氏名・本文・図表・注・引用文献を含めて、年報掲載時に 14 ページ以内（1 ページは 41 字×38 行で 1,558 字）に収まるものとします。編集上必要なデッドスペースを差し引いて、上限字数は 21,402 字（41 字×522 行）です。図表等については編集上十分なスペースを確保してください。なお英文要旨は掲載決定後に 300 語以内で作成します。自由投稿論文の締め切りは、2023 年 9 月 30 日（土）必着です。
2. 書評（依頼）／自著・自訳書・編著書紹介（依頼）／研究紹介：タイトル・執筆者氏名・本文を含めて年報掲載時に 2 ページ以内となる 2,870 字（41 字×70 行）に収まるものとします。
3. ビューポイント／名著再発見：タイトル・執筆者氏名・本文を含めて年報掲載時に 4 ページ以内となる 5,986 字（41 字×146 行）に収まるものとします。2 および 3 の原稿の締め切りは、2023 年 10 月 31 日（火）です。
4. 原稿は、Eメールの添付ファイルにて電子ファイルでご提出ください。原稿提出時には、別紙に氏名・住所・電話番号・電子メールアドレスを明記してください。
5. 「執筆要領」で明文規定している以外のルールは『社会学評論スタイルガイド』に準拠することになります。この点、くれぐれもご注意ください。
6. また自由投稿論文については 300 語程度の英文要旨を掲載することになります。英文要旨は、編集委員会が論文審査が終了した後、提出していただきます。英文校閲は、編集委員会で行う予定です。
7. 原稿の提出先 送付先：〒430-8533 静岡県浜松市中区中央 2-1-1 静岡文化芸術大学文化政策学部文化政策学科 船戸修一 気付 Email: s-funa[at]suac.ac.jp ←[at]を@に変えてください。

（船戸 修一）

4. 50 周年事業委員会からの報告

●地域社会学会 50 周年記念事業「若手会員の地域調査・研究ワークショップ」第 1 回研究会

7 月末までメンバーを募集し、21 名の参加者が確定しました。そのうち、14 名が参加して、8 月 17 日（木）13:00～15:00 に、第 1 回研究会を開催しました。地域社会学における特に構造分析についての 3 つのレビュー論文（中筋 1997; 玉野 1999; 中澤 2007）を事前に読んだうえで、ワークショップ形式でディスカッションしました。目的を「地域社会学における研究の射程と方法論のこれまでを確認（特に構造分析を中心に）し、今後を展望する」として、まずは 1990 年代までの研究の射程と方法論を出し合い、その後 2000 年代以降にはこれを誰がどのように引き継いでいるか検討し、そこに自分たちの研究も位置づけるという試みを行いました。結果としてきちんとまとまったわけではありませんが、各自における地域社会学（会）への理解が深まり、課題を認識できた会となりました。今後（9 月～12 月）は 4 冊の構造分析の手法を用いた著作（福武 1954; 鎌田・鎌田 1983; 島崎・安原 1987; 似田貝・蓮見 1993）を講読していく予定です。

福武直, 1954, 『日本農村社会の構造分析——村落の社会構造と農政滲透』東京大学出版会.

中筋直哉, 1997, 「構造分析から社会過程分析へ——現代都市社会研究の方法と課題」蓮見音彦・似田貝香門・矢澤澄子編『現代都市と地域形成——転換期とその社会形態』東京大学出版会.

中澤秀雄, 2007, 「地方自治体『構造分析』の系譜と課題」蓮見音彦編『講座社会学 3 村落と地域』東京大学出

版会.

玉野和志, 1999, 「巨大都市化の発展類型と地域——脱地域化と再地域化のダイナミズム」奥田道大編『講座社会学 4 都市』東京大学出版会.

鎌田哲宏・鎌田とし子, 1983, 『社会諸階層と現代家族——重化学工業都市における労働者階級の状態』御茶ノ水書房.

島崎稔・安原茂編, 1987, 『重化学工業都市の構造分析』東京大学出版会.

似田貝香門・蓮見音彦編, 1993, 『都市政策と市民生活——福山市を対象に』東京大学出版会.

(小山 弘美・佐藤 洋子)

●地域社会学会 50 周年記念事業「地域社会学を振り返る」研究例会での報告について

地域社会学会 50 周年記念事業「地域社会学を振り返る」については、7 月 15 日（土）に東洋大学で開催された 2023 年度第 1 回例会で、企画担当理事の吉野から、「50 周年事業『地域社会学を振り返る』を始めるにあたって」と題する報告を行いました。また、10 月 14 日（土）に早稲田大学で開催予定の第 2 回研究例会では、橋本和孝会員（地域社会学会元会長・関東学院大学名誉教授）に「1980 年代中葉以後の私的都市・地域社会研究-地域社会学会との 40 年-」と題する報告をお願いしています。その後も、研究委員会の協力を得ながら、研究例会での報告を予定しています。

(吉野英岐・玉野和志・佐藤洋子)

5. 事務局からの報告

(1) 会費納入状況

2023 年 7 月 11 日時点の会員は総数 375 名（一般 337 名、院生 19 名、終身 19 名）で、2023 年度の会費納入率は 42.7% でした。

3 年滞納者は現時点では 6 名です。

(2) 会報 234 号・ジャーナル No. 11 の発行

学会 HP 上で会報 234 号とジャーナル No.11 が発行されました。

(松宮 朝)

6. 事務局からのお願いとお知らせ

(1) 2023 年度会費納入のお願い

2023 年度の会費納入をよろしくお願いします。

納入の状況について、<https://jarcs.sakura.ne.jp/information.html> よりご確認お願い申し上げます。

上述の通り、今会計年度からは SMOOSY による納入をお願いしております。何卒よろしくお願い申し上げます

(2) 会員の研究成果情報の提供のお願い

2022 年以降の研究成果に関する情報を募集しています。用紙（地域社会学会 WEB サイトからダウンロードできます）の情報を、事務局宛のメールでお送りください。ご協力よろしくお願い致します。万一、情報を提供したのに掲載されていないなどの手違いがございましたら、事務局まで御一報くださいますようお願い致します。

(松宮 朝)

7. 会員異動（敬称略）

< 新入会員 >

白井宏昌（亜細亜大学）

葛西優香（東日本大震災・原子力災害 伝承館）

大和田奈津（早稲田大学大学院）

田村萌（一橋大学）

浅岡永理（麻布大学大学院）

西川志津雄（早稲田大学大学院）

酒井晴香（東京国際大学）
傅昱（東北大学大学院）
<退会会員>
伏見英俊
<逝去>
木下聖 古城利明

（以上、2023年7月14日理事会で承認）

8. 会員の研究成果情報(2022年～2023年)

○著書

橋本和孝『社会認識の伏流水』私家版、2021年8月
橋本和孝『安藤昌益の歴史社会学的接近』私家版、2022年3月
橋本和孝『安藤昌益-社会学者からみた昌益論-』東信堂、2023年8月

○書籍分担執筆

橋本和孝「一日の大半は午前中」 かなな社編『定年後の学問の愉しみ』青灯社、2023年6月

○論文

橋本和孝「安藤昌益の動物論-動物愛護思想の先駆者-」 『関東学院大学人文学会紀要』147号、2022年12月

9. 理事会のご案内

第2回理事会

日時 10月14日（土）10：30～12：30

早稲田大学戸山キャンパス+ハイブリッド